

研 修 機 関	養護老人ホーム 第二松寿園
研 修 期 間	平成18年9月1日～9月30日
所 属 ・ 氏 名	小松市立向本折小学校 川村 聡子

I 研修目的

- ・ 小学校の総合的な学習の時間で福祉の学習をしているが、外面的にしか理解できていないので、福祉の現場に関わり、高齢化社会を迎えていることに当たって内面的な理解を深める。
- ・ 総合的な学習の時間で取り上げる福祉に関する学習をどのような視点で取り組む必要があるのか再考する。
- ・ 福祉施設は、学校と同じように人と関わる場なので、ケアワーカーのコミュニケーションの取り方を学び、自己のコミュニケーション能力の向上を図るとともに、相手とうまくコミュニケーションをとるときの留意点を学ぶ。
- ・ 福祉施設の基本理念や指針を理解し、利用者の方に対する工夫や努力、組織の機能について理解し、共通して大切なことを学校にも活用する。

II 研修内容

第二松寿園は、以下のように大きく分けて3つに分けられている。この分け方は、利用者の希望や心身の状態などによるものである。

- 1 養護老人ホーム研修（9月1日～9月15日）
クラブ（太鼓、生け花、習字）への参加、移動・入浴・食事・口腔ケアの介助、トイレの介助の補助、コミュニケーション、昼食準備、レクリエーション、掃除等
- 2 デイサービス研修（9月19日～9月22日）
利用者出迎え、体操、クラブへの参加、移動・入浴・食事・口腔ケアの介助、トイレ介助の補助、昼食準備、コミュニケーション、レクリエーション、水分摂取の介助、送迎、掃除等
- 3 特別養護老人ホーム研修（9月25日～9月30日）
移動・入浴・食事、口腔ケア介助、トイレ介助の補助、コミュニケーション、昼食準備、水分摂取の介助、掃除等

III 研修成果

1 福祉施設の基本理念の理解

（自立支援、生き生きと楽しく生きるための工夫や努力）

【基本理念】

私たちは、地域の一員として福祉の実情をとらえ、地域と連携して高齢者や障害者が住み慣れた地域で安心して暮らすことができるよう支援に努めます。

【行動指針】

- ・ 常に相手の立場に立ってサービスを提供します。
- ・ 技術の向上に努め、質の高いサービスを提供します。
- ・ 笑顔を忘れず、尊敬と愛情でサービスを提供します。
- ・ 安心、安全、信頼のサービスを提供します。

以上のような理念と指針を持って職員の方は仕事に従事されている。特に、印象に残ったことがいくつかある。

第一に挙げられるのは、利用者の方の将来を見通して、よりよい生き方を支援するために本人ができることをできるだけしていただく、自立支援という考え方である。

この考え方と学校の児童に対しても同様で、自分のことは自分でできること＝自主自立の力をつけることが児童にとっても楽しく生きるために非常に必要なことである

と再認識した。

第二に、利用者の方が生き生きと楽しく生きられるようにいろいろな工夫や努力をされていることである。

利用者の方とのコミュニケーションはもちろんであるが、利用者に聞こえる職員の方の会話にもジョークが入った会話をし、雰囲気をはっと明るくすることができる。

職員の方の笑顔や明るい会話は、本当にすばらしかった。私たち教職員も子どもたちにとって学校が楽しいものになるためには、やはりこの笑顔と楽しいコミュニケーションが非常に大切であると思った。

また、いろいろなクラブ活動や季節の行事が企画されていた。日々に変化があることも活気のある毎日になり、楽しい生き方につながると思う。クラブは太鼓、生け花、書道の3つが行われていた。9月の行事は、バーベキューやおはぎ作り、柿の葉寿司作り、敬老祝賀会などがあった。その他に買い物デーや定例講（お参り）、レクリエーションがあったり、居酒屋や喫茶が開かれたりしているなど、いろいろ楽しめる工夫や努力をされていた。

学校では、教材分析の工夫や授業改善のための努力と学校行事がこれにあたると考えられる。学校5日制になってからは行事の精選がよく言われるようになったが、季節感を養ったり、親睦を深めたりするための一つとして学校行事は必要であり、行事が学校を楽しくする一要因になっていることを再認識した。

2 高齢者と接するときの留意点（尊敬の気持ちで）

コミュニケーション・衣服の着脱・食事・キャッチ交換・入浴・口腔ケアの介護などの実習をさせていただいた。行動の指針に「尊敬と愛情でサービスを提供する」とあったが、職員の方のすべてにその心構えが感じられた。非常に感心したのは、言葉遣いである。敬語が多く使われていた。また、「ありがとう」の言葉も非常に多く使用されていた。この「ありがとう」は利用者の方も本当に多く使用されていた。園内の掲示物の一つに「『ありがとう』は幸せになる魔法の言葉」というのがあった。心に響く言葉であった。

学校でも、言葉遣いについては気をつけているつもりだが、この研修で再度見直す機会を得た。子どもたちにも一人の人として、尊敬の気持ちを持って接していきたいと思いを新たにしたい。また、心があたたかくなる言葉、「ありがとう」をたくさん子どもたちとともに言い合える学級経営をしたい、「ありがとう」がたくさん聞かれる学校にしたいと思った。

3 高齢者理解（自尊心の低下、生き甲斐喪失）

施設で楽しい生活になるよう、いろいろ工夫されているが、利用者と話していると非常に自己肯定感や自尊感情が低下していることに気付いた。何も楽しみがなく、なんのために生きているかわからん・・・と生き甲斐をなくしている方がいらっしまった。家族と離れ暮らすことで、淋しさを味わっていらっしまったのかもしれない。また、自分の健康状態が優れず思うように生活できないことに希望を失っているのかもしれない。

今、私ができることは、この現実をふまえて、利用者やお年寄りの心情を理解して接するということである。そして、元気ができるように話しかけることである。

現実の厳しさや難しさを感じた一場面であった。

4 高齢者との共生

これから、日本はますます高齢化社会になっていく。そして、自分も確実にその現実に近い。少子化で子どもたちが少なくなり、お年寄りが占める人口の比率が高くなっている現在、何が求められているのであろうか。

それは、共生ということではないだろうか。第二松寿園では、特別養護老人ホームに若い職員の方が大勢いらっしまった。ここではユニットというチームを組んで介護をされているのであるが、男性の職員の方が多い。やはり、力仕事が多いからであろうと考えられる。若い方がお年寄りの声に耳を傾け（傾聴）、介護を優しく行ってい

る姿に感動した。このようなことがこれから非常に必要なのではないかと感じた。

家庭では、核家族化が進み、お年寄りと一緒に過ごすことが少なくなっているのも、お年寄りの理解がますます難しくなっているのが現状である。

小学校では、今、総合的な学習の時間で「郷土」や「福祉」、「環境」、「国際理解」、「キャリア教育」などが取り上げられているが、この福祉の分野で、近くの老人福祉施設の訪問を定期的に行い、まずお年寄りとのふれ合いを通じてお年寄りの理解を深めていくことが大切であろう。そして、将来、この松寿園のお仕事に従事していらっしゃる若い介護士さんのお年寄りに優しく尊敬の心を持って接し、共生する大切さを理解する青少年になるよう、子どもたちの指導に心がけたいと思った。

5 職員の協力体制

第二松寿園では、職員がユニットというチームを作り、基本理念や行動方針に基づいてしっかりと協力体制を組んで介護に従事している。

朝、打ち合わせをしっかりと行い、利用者の方一人一人の健康や様子をしっかりと共通理解し、引き継いでいく。「安心、安全、信頼のサービス」と行動方針に掲げられていたが、安心や安全の徹底が信頼に繋がるのだと思う。

学校も同様で、学校と保護者、地域の連携、信頼関係が非常に大切である。そのためには、学校は子どもたち一人一人の様子をしっかりと把握し、問題は早期発見、早期対処に努めることが大切で、毎日の忙しさに流されてしまうことがあるが、そうあってはならず、子どもたちが毎日楽しく生活できる場に日々心がけることが使命であることを再認識した。

6 福祉の学習で生かせること

①コミュニケーションの取り方

この研修で、お年寄りの接し方の留意点や施設に入っている方とのコミュニケーションをとるためのゲームなどを少し学べたので、子どもたちに紹介し楽しい交流の時間の一助としたい。

②ありがとうの言葉

日常生活や教科、道徳の時間など全教育活動で心の教育を行い、笑顔で「ありがとう」がたくさん言えるようにし、お年寄りの方との交流で自然に「ありがとう」ができるようにしたい。

③尊敬の気持ち

どんなときでも相手のことを考え、尊重の気持ちを持って接することを大切にしたい。特にお年寄りは私たちよりも長く生き、多くの苦労や努力し、今の日本を支えてこられた。このことを理解し、尊敬の気持ちを持って接するようにしたい。

IV 今後の課題

この研修のおかげで、福祉施設の概要を学べ、研修目的を達成することができた。また、学校以外の職場を体験することによって、学校や自分自身を振り返る機会を得ることができた。特に、特別養護老人ホームでいろいろなお年寄りと接することにより、自分の周りにいる人の老後について、また、自分自身の老後について考えさせられた。

今後は多忙な学校現場に戻っても、学んだことや考えたことを学校や生活に生かし、教師の信条を忘れず、いろいろな出来事を冷静に適切に対処していきたい。そして、目の前の子どもたちをよく見る目と全体や遠くを見通す目を持って職務に専念していきたい。

最後になりましたが、お忙しい毎日にもかかわらず受け入れていただき、丁寧に温かくご指導を下さった第二松寿園の皆様方、本当にありがとうございました。また、貴重な研修の場を与え、お世話して下さいました石川県教育委員会をはじめ、小松教育事務所、小松市教育委員会の皆様方、そして、研修に専念できるように支援して下さいました学校長はじめ、職員の皆様方、ご理解やご協力をして下さった保護者の皆様方に心より感謝申し上げます。